【大野市教育理念】明倫の心を重んじ 育てよう 大野人

「大野市文化財保存活用地域計画」（文化庁認定）掲載事業

令和５年度 大野市歴史博物館企画展

美しい世界の動物園



孔雀富貴図屏風（部分）
（個人蔵）

大野市歴史博物館は、大野市に昔から伝えられた“お宝”をたくさん保管しています。
今回は、動物をテーマに美術品を紹介します。
美しい世界に登場する動物たちをお楽しみください。



兎型釘隠し
（武家屋敷旧田村家）



普賢菩薩像（個人蔵）

【会期】（期間中無休）
令和5年7月15日（土曜日）
～ 9月3日（日曜日）

【時間】
午前9時から午後4時まで
（日曜・祝日は午後5時まで）

【会場】
大野市歴史博物館
住所 ： 大野市天神町2－4
電話 ： 0779－65－5520

【入館料】
一般300円、中学生以下 無料

【お問い合わせ】
大野市歴史博物館
電　話：0779－65－5520
メール：hakubutsukan@city.fukui-ono.lg.jp

結の故郷 越前おおの

大野市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

展示資料

孔雀富貴図屏風　（時代　大正時代） 悟雪洞 大機（慶応元年～昭和 27 年）の作品です。悟雪洞は明治 22 年、皇居豊明殿の格天井画の制作に加わったといわれています。 雌孔雀の周りには富貴花とも別称される芍薬の花が咲き満ちており、高貴な香りに交じって周囲に漂う雌の色気が感じられます。 雌孔雀を目指して舞い降りる雄孔雀は、羽を描く線の太さが均一ではなく、色むらがあります。そのため、作品から離れて見ると、羽全体が揺らいでいるように錯覚し、まるで雄々しく羽ばたいているように見えます。
群亀図 「鶴は千年、亀は万年」といわれ、亀は長寿の象徴として多くの作品に登場します。紀元前 140 年ごろの中国で書かれた「淮南子」に登場する「鶴寿千歳」がもとになっており、江戸時代の僧・仙厓義梵が「鶴は千年、亀は万年、我は天年」と書き残したことで、鶴亀の組み合わせが定着したといわれています。 生まれたばかりと思われる多くの子亀が、一斉に海に向かっています。海原で大きく成長して、またこの浜に戻ってくることでしょう。この作品には、長寿のほかに、延々とした子孫繁栄への願いも込められています。
鷲鷹図屏風　（時代　江戸時代） 左側（一扇）に描かれる鷲は、兎と思われる動物を捕まえています。尾羽に描かれた白い筋が画面に緊張感を与え、大きくデフォルメされた風切羽が鷲に迫力を与えています。また、後頭の羽を白く鋭角な突起で連続して描くことで、鷲の猛々しさが演出されています。一方で、右側（二扇）の鷹は松の枝に止まり、はるか遠くを見つめており、両画面（両扇）で「静と動」が表現されています。 こうした画題は、書院風の調度（インテリア）を好んだ武家に好まれました。
群鶴図屏風　（時代　江戸時代） 「鶴は千年、亀は万年」といわれ、鶴は長寿の象徴として多くの作品に登場します。紀元前 140 年ごろの中国で書かれた「淮南子」に登場する「鶴寿千歳」がもとになっており、江戸時代の僧・仙厓義梵が「鶴は千年、亀は万年、我は天年」と書き残したことで、鶴亀のセットが定着したといわれています。 作品中の鶴は、エサをついばんだり、仲間と戯れ遊んでおり、安全を脅かす者がいない、平和な世界が描かれています。
普賢菩薩図　（時代　江戸時代） 名前は「普く賢い者」を意味し、世界のいたる所に現れて、仏による衆生救済を助けるといわれる菩薩です。『法華経』に「法華経を唱える者があれば、６本の牙の白い象に乗って姿を現す」（読誦此経。我爾時乗六牙白象王。与大菩薩衆倶詣其所。）と

説かれています。

しかし、この作品の象の牙は２本だけです。象に対する、生き物として正しい知識が広まった後に描かれたのかもしれません。

文殊菩薩図　（時代　江戸時代）

文殊はサンスクリット語のマンジュシュリー（Mañjuśrī）に漢字を当てはめたもので、文字に意味はありません。名前の意味は定まっていませんが、「法性（物事の本質）を象徴する柔軟（mañju-）な言葉を持ち、そのため智慧の拠り所となるから吉祥（śrī）であり、そこから出現する無二の智慧が「文殊菩薩」」と解釈されています。

「獅子」（ライオン）は力を象徴するため、文殊菩薩が乗ることで、智慧が暴力に勝っていることを表していると言われています。また、智慧は悟りのために重要な要素であるため、仏の説く教え＝獅子吼を象徴するとも考えられます。

鷲鷹図屏風　（時代　安土桃山時代）（指定　県指定）

一隻ごとに一対の猛禽が描かれており、右隻の鷲は白い犬を、左隻の鷲は猿を捕まえています。こうした勇ましい鷲や鷹は、武将が好んだ題材です。

落款（作者のハンコ）がないため作者は不明ですが、作風から曽我派と考えられます。越前守護大名・朝倉氏の本拠地・一乗谷を織田信長軍が攻めた時、一乗谷にいた曽我派の職人が大野に避難してきたのでしょうか。

墨画に淡く彩色がされており、一見すると控えめな印象を受けますが、画面の上部には金箔が散らされており、当時の好みがよくあらわされています。

蝦夷嶋奇観補註　（時代　江戸時代）

文久３年、松前藩（北海道）の藩主・松前徳広が蝦夷地（北海道）での生活や文化、動植物などをまとめました。

ラッコの説明では、「海上に浮時は腹を上にして浮遊せり」「海底に沈没て好て海栗を採り、水上に於て仰て是を割り食ふ」と書かれており、当時の人はとても不思議な生き物と感じたことでしょう。

このほかにも、エトピリカ（水鳥）やシマフクロウ、トナカイ、シマリス、ウミガメ、アシカ、トド、ザリガニなどが紹介されています。

梅屋デコンボ　「犬」「猫」「鯛乗り童子」　（時代　江戸時代 から 明治時代）

京都の伏見人形を参考にして、大野で作られた土人形です。

「梅屋」とは、この土人形を作っていた玉木治助とその義理の弟が使っていた屋号です。「デコンボ」とは、人形を意味する「木偶の坊」が変化したものです。

子どものおもちゃやお土産として買われ、動物のほか、武将や恵比寿、大黒、立ち娘、福助など、さまざまなデザインが作られました。

大野藩札　（時代　江戸時代）

藩内だけで通用させた紙幣で、藩のお金が少なくなると発行されました。藩札は、小判や貨幣と違って簡単に偽造されそうだったことから、当初はあまり信用されま

せんでした。そこで各藩は、偽造を防止するとともに、藩札に威厳を持たせるために、神仏や霊獣（縁起の良い動物）などをデザインしました。

大野藩の藩札は、大黒天の上に「鳳凰」が飛び、下に「獅子（ライオン)」「虎」「亀」がデザインされています。